

東聖

明るい子 夢
がんばる子 力
やさしい子 心



令和3年10月28日10月号

宿泊研修無事終了 ～友達について考える～

校長 成田 光弘

延期されていた5年生の宿泊研修を、10月18日(月)～19日(火)無事終わることができました。これで本校で計画していた泊を伴う行事は2つとも実施することができ、ほっと胸をなで下ろしているところです。

10月に入り気温がぐっと低くなってきたことや、当日の天候により、予定していた「ナイトハイク」は、室内の「キャンドル集会」に変更しました。

このキャンドル集会で使う元火は、大雪青少年交流の家の玄関にある「友情の灯」からもってきます。この火、実は歴史が古く、青少年の家が誕生した時に十勝岳山頂からもってきた火だそうです。今から55年前、昭和41年10月16日のお話です。その時から今日まで「友情の灯」として多くの人に守り育てられ受け継がれて来ました。この「火」を受け継いできた人たちは、この施設を利用する人にとって、利用したその日が友達と過ごした良い思い出として、これからも「友情の灯」とともに心に残ってほしいという願いを込めてこの火を守ってきたそうです。

そこで、集会の際にこの火の歴史と「友情」「友達」のお話をしました。

今、友達がいると考えている人には、それはとても素晴らしいことで、毎日楽しく過ごすことができる、幸せな時間を過ごしていると話しました。

友達がいなくて考えている人には、自分も小学校時代学校に友達と呼べる人がいなかったことをお話ししました。人と話すとき、とても緊張する子だったので、1人でいるのが好きで、それはそれで悪くないと、考えていると伝えました。1人でいても楽しみを見つけることができたならば、それはそれで豊かな人生を送ることができる伝えました。

友達がいるかどうかかわからないと考えている人は「自分は友達だと思っているけど、相手はどう考えているんだろう」「大好きな友達はあるけど、今けんかしているからなあ」等、いろんな考えが思い浮かぶのだと思います。そういう人は、きっと相手の気持ちをよく考えることができる優しい人なんだと話しました。

そして、大人になると友達以外にも大切な人と人との関わりができることを伝えました。例えば、この人というパートナーを見つけて家族を作ること。家族と過ごす時間が増えると、友達と過ごす時間は減るけれど、それは寂しいことではなく、それも大切な時間だと言うこと。仕事の仲間と過ごす時間もとても楽しい時間だという話をしました。

「友達」以外にも豊かな人間関係があることを提示したのは、私なりの意図がありました。「友達」という関係は、とても素晴らしい関係ですが、学校ではそれを強調しすぎていたかもしれないという反省が私の中にはあります。

それを意識したのは「ランチメイト症候群」という言葉を知ったときです。この言葉は精神科医の町沢静夫氏によって名付けられました。コミュニケーションの葛藤で、学校や職場で一緒に食事をする相手(ランチメイト)がいなくて一種の恐怖を感じるという症状を指すようです。一人で食事をする姿を学友や同僚に見られないように図書館やトイレなどで隠れて食べる人が実際にいるようです。

「友達」がいることは素晴らしいことで、みんな友達を作るよう努力しなければいけない、「友達」がいなくてということ、対人関係が築けない不完全な人間だと追い詰められている人が、恐らくそのような行動を取るのだと思います。

ですから、学校はもっと多様な人間関係を子供たちに提示すべきだと考えます。

実際私も、この年になって振り返ってみると、「友達」と一緒に過ごした時間は思いの外短く、家族という時間の方が長いです。ひょっとしたら、職場の人間と過ごしている時間は、更にそれよりも長いです。しかし、それは全然不幸なことではなく、むしろ楽しいことです。

子供たちにも、是非多様な人間関係について考えを広げてほしいと願います。



大雪青少年交流の家

「福祉作文」「花のある風景画コンテスト」の受賞について

東神楽町社会福祉協議会で例年募集している福祉作文について、今年度も本校では、2・4・6年生が取り組み、次の3点が最優秀作文に選ばれました。おめでとうございます。最優秀作文は、11/23～12/5まで東神楽町図書館に展示されます。

また、今年度、3・4年生を対象とした東神楽町主催による「花のある風景画コンテスト」があり、本校からは7名が応募しました。先日、表彰式があり、2名が入賞しました。おめでとうございます。入賞作品は12月から東神楽町図書館に展示されるほか、絵葉書として町のPRイベントなどで活用されるとのことです。



《令和3年度 福祉作文 最優秀作文》

2年 佐藤 結華 『じいちゃんにプレゼントした思い出』

4年 今井 柚稀 『かいごの人の気持ち』

6年 佐藤 悠來 『障がい者体験を通して』

《花のある風景画コンテスト 入賞者》

最優秀賞 3年 古川 莉己

優秀賞 3年 名越 鋼作



TOS (東聖オープンスクール) 終了しました

学習発表会の代替行事であるTOS(東聖オープンスクール)が、10月6日、8日、12日の3日間に分けて、昨年同様、学級ごとに行われました。各学級ともに感染症対策により、十分な練習ができない中での取組でしたが、それぞれ工夫を凝らし、日常の学習の成果を生かした発表を行っていました。



1年生～むかしあそびをつたえよう



6年生～物語「川とノリオ」の音読と合唱

保護者の皆様におかれましては、1家族2名以内の制限や分散開催等、ご不便をおかけしましたが、ご理解とご協力をいただきながら多くの皆様方にご参観いただき、ありがとうございました。

新しいALTの紹介～ロアさん～

新型コロナウイルス感染症の影響で来日が遅れていた、東神楽町教育委員会の新しいALT(外国語指導助手)が、今月から配置されるようになりました。アメリカ出身のロアさんと言います。

これまでは、3・4年生は非常勤講師の小泉先生、5・6年生は中学校の藤原先生がそれぞれ授業を行っていましたが、これからは、ロアさんも3年生から6年生の各クラスに週1回ALTとして加わるようになります。



5・6年担当の藤原先生(左)とロア先生(右)

感染症の再拡大防止対策の徹底について

保護者の皆様におかれましては、お子様の毎日の検温や健康観察シートへの記入・確認等、引き続き感染症対策にご協力いただき、ありがとうございます。学校では、先週から「のどの痛み、咳」などの風邪症状による欠席が増えています。現在、全国的に感染者数は減少傾向にありますが、今後の再拡大を未然に防止する観点から、ご家庭では引き続き健康観察に注意していただき、風邪症状がある時には、無理に登校させることがないよう、改めてご理解とご協力をお願いします。

なお、マチコミでお知らせしておりますとおり、欠席者が多い学級を中心に、タブレット端末を使って試験的に遠隔授業を実施しております。まだ、全校で一斉に実施するのは難しい状況ですが、欠席しても自宅で授業が受けられる環境づくりを目指して、今後も試行錯誤を続けていきます。

